

報告第3号

「奥能登のあえのこと」のユネスコの無形文化遺産 代表一覧表への記載について

- 1 記 載 日 : 平成21年9月30日
- 2 名 称 : 奥能登^{おくのと}のあえのこと
- 3 所 在 地 : 輪島市・珠洲市・穴水町・能登町
- 4 保 護 団 体 : 奥能登のあえのこと保存会

輪島市三井町洲衛10部11番地1(奥能登広域圏事務組合事務局内)

5 概 要

奥能登のあえのことは、稲の生育と豊作を約束してくれる田の神を祀る儀礼で毎年12月と2月に行われる。

収穫後の12月は、田の神を田から家に迎え入れて、風呂に入れたり、食事を供したりして、収穫を感謝する。

そして耕作前の2月になると、再び風呂に入れたり、食事を供したりして、田の神を家から田に送り出して豊作を祈願する。

この儀礼は、家の主人が中心となって執り行い、目に見えない田の神があたかもそこに実在するかのようにふるまう。

稲作に従事してきた日本人の基盤的生活の特色を典型的に示す農耕儀礼である。